

## 第 60 回通常総会・会長講演・表彰式・演奏会

S7 会場 第 3 学舎 4 号館 4101R

日 時 3月26日(月)  
会 場 関西大学千里山キャンパス・第3学舎4号館4101R (S7会場)  
13:40~14:10 会長講演  
「化学普及活動をさらに前進させよう」平成19年度会長 藤嶋 昭  
14:20~15:20 第60回通常総会  
15:30~16:30 表彰式  
16:45~17:45 コンサート (Orchestra Chimica)  
\*創立125周年を機に本会会員により結成されたオーケストラによる演奏。参加費無料。

## 懇親会

関西大学 100 周年記念会館

日 時 3月26日(月) 18:00~20:00  
会 場 関西大学千里山キャンパス・関西大学100周年記念会館  
参加費 一般4,000円、学生2,000円  
\*今回は、アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)の懇親会と合同になります。

## LAN コーナー

第 4 学舎 2 号館 R103

第 87 春季年会では第 4 学舎 2 号館 R103 の休憩室にて、LAN サービス(有線)の提供を行います。使用方法については春季年会ウェブサイト (<http://csj.jp/nenkai/>) でお知らせします。

## 就職相談会

中央体育館

主 催 (社)日本化学会 産学交流委員会・第87春季年会実行委員会、(株)化学工業日報社  
日 時 3月25日(日)~27日(火) 10:00~17:00 (3日間)、但し、25日の開催時間は13:00~17:00  
会 場 関西大学千里山キャンパス・中央体育館  
参加費 無料  
参加申込方法 直接会場へお越し下さい。  
参加企業 (1月22日現在)  
(株)ADEKA エスケー化研(株) 共栄社化学(株) ショーワグループ(株) ダイセル化学工業(株) 千代田ケミカル(株) 日華化学(株) 日東紡績(株) 三井・デュボンフロロケミカル(株) 三菱化学(株)

## 付設展示会

中央体育館

主 催 (社)日本化学会 (株)化学工業日報社  
日 時 3月25日(日)~27日(火) 10:00~17:00  
会 場 関西大学千里山キャンパス・中央体育館  
参加費 無料  
出展社 (1月22日現在)  
(株)アイシス (株)IDX (株)アインテスラ 朝日分光(株) アヅマックス(株) アドバンスソフト(株) (株)石井理化機器製作所 インフォコム(株) 米国法人 Wavefunction, Inc. 英国 W立化学会 (有)エービーエフ (株)エヌ・ティー・エス NPG ネイチャーアジア・パシフィック Elsevier MDL エルゼビア・ジャパン (株) 洋書事業部 エルゼビア・ジャパン (株)

大阪大学サステイナビリティサイエンス研究機構 オーシャンフォトニクス(株) 大塚電子(株) オックスフォード大学出版局 オプトシリウス(株) 科学技術振興機構 電子ジャーナル課 科学技術振興機構 理数学習支援部(株) 化学工業日報社(社) 化学情報協会(株) 化学同人 関西大学 関東化学(株) コンフレックス(株) サイバネットシステム(株) CRC Press (Taylor & Francis Group LLC) ジーエルサイエンス(株) シグマ アルドリッチ ジャパン(株) 四国計測工業(株) 柴田科学(株) 島津エス・ディー(株) シュプリンガー・ジャパン(株) 純正化学(株) (株)スギヤマゲン 独立行政法人 製品評価技術基盤機構化学物質管理センター(株)ゼネラルサイエンスコーポレーション(株)セントラル科学貿易 ダイセル化学工業(株) WDB(株) (株)デジタルデータマネジメント(株)東京化学同人 東京化成工業(株) 東京書籍(株) 東京理化学器械(株) トムソンサイエンティフィック トムソンラーニング 長瀬産業(株) 有機ファイン部 ナカライテスク(株)日機装(株) (株)ニチリョー(社)日本化学会 日本カンタム・デザイン(株) 日本ゼオン(株) 日本電子(株) 日本分光(株) 日本分析工業(株) バイエルンマイスタービール(有) (株)バキューブランド サイエンティフィック ジャパン 浜松ホトニクス(株) (株)ピアソン・エデュケーション ビー・イー・エス(株) (株)日立ハイテクノロジーズ ヒドラス化学(株) (株)ヒューリンクス 富士シリシア化学(株) 富士通(株) (株)藤原製作所(株)フレックス マイクロ化学技研(株) 丸善(株) 出版事業部 丸善(株) 卸営業部(株)美和製作所 武蔵エンジニアリング(株) メルク(株) 山善(株) (株)山武 ユサコ(株) (株)UNICO (株)ユニソク ユラボジャパン(株) (株)ライトストーン(株)リガク(株)菱化システム(株) レッチェ WahSang Gas (China) Investment Ltd. (株)ワイエム シー ワイリー・ジャパン 和光純薬工業(株) 渡辺化学工業(株)  
化学史展示コーナー

◇無料コーヒーコーナー  
◇抽選コーナー

## 第 7 回男女共同参画シンポジウム 化学が生きる多様なキャリア群像 (—女性化学者・技術者の夢と現実、 将来展望—)

S6 会場 第 2 学舎 1 号館ゼミ棟 A41

主 催 日本化学会男女共同参画推進委員会  
日 時 3月25日(日) 13:20~17:00  
会 場 関西大学千里山キャンパス・第2学舎1号館ゼミ棟A41 (S6会場)

男女共同参画が活発に推進されている。しかし、学部や大学院に学ぶ女子学生にとって、進路を具体的に考えることは、ロールモデルが少ないため、必ずしも容易ではない。本シンポジウムでは、様々な分野で活躍する化学を学んだ方々に、その仕事・経験について語っていただき、化学を学ぶ学生あるいは化学分野で働く若手研究者・技術者の皆さんと、より具体的な将来の展望を議論する。

プログラム

13:20- ご挨拶 日本化学会副会長 楠本正一  
座長(産総研)相馬芳枝  
13:30-13:40 趣旨説明(東海大)佐々木政子  
13:40-14:10 共働き子持ち主婦の博士課程への挑戦(フジテレビ商品研究所)塩原みゆき  
14:10-14:40 時にスペシャリスト、時にゼネラリスト~科学技術関連人材のキャリア(日刊工業新聞社編集局科学技術部)山本佳世子  
座長(お茶大)森 義仁  
14:40-15:10 大学院の男女共同参画推進活動と化学の将来(東大院理)西原 寛  
15:10-15:40 理系職場の将来展望、職場環境は自分で拓く(味の素(株)バイオ工業化センター)小山匡子  
15:40-16:10 化学大好き学生を育てる研究と教育(北大院理)加藤昌子  
16:10-17:00 総合討論(司会(東北大)栗原和枝)  
参加費 無料

申 込 不要、当日会場にて受付。

**シンポジウム**  
**「科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える (3)」**  
**S4 会場 第 2 学舎 3 号館 E201**

共催 (予定) 応用物理学会・化学工学会・情報処理学会・大気環境学会・電気学会・電子情報通信学会・土木学会・日本化学会・日本機械学会・日本技術士会・日本建築学会・日本原子力学会・日本農芸化学会・日本薬学会・日本分子生物学会

後援 (予定) 日本学術会議

日 時 3月25日(日) 13:00～17:00

会 場 関西大学千里山キャンパス・第2学舎3号館E201 (S4会場)

科学者・技術者コミュニティである学協会は、人類の安全・健康、福祉の増進や環境保全のために重要な役割を果たすことが期待され、「行動規範」「科学者・技術者倫理」の確立が社会から受容される必要条件になっている。また、近年は研究者の不正の問題や大学発ベンチャー等に係る知的財産権の問題などもクローズアップされ、科学者・技術者コミュニティの社会に対する責任が重大な問題になってきている。

本シンポジウムでは、本会倫理委員会の活動状況について紹介するとともに、研究者の倫理、知的財産に関わる倫理、倫理教育としての技術者倫理等について、ご講演をいただき、広く討議しながら学会としての今後のあり方を考えてみたい。

プログラム

挨拶と報告

13:00～13:20 日本化学会倫理委員会の活動 (仮題) (日本化学会倫理委員会委員長/東京理科大学教授) 井上祥平

講演

13:20～14:10 社会のための科学：研究者倫理の確立を (仮題) (独) 科学技術振興機構社会技術研究開発センター所長) 有本建男

14:10～15:00 知的財産に関わる倫理について (仮題) (財団法人 知的財産協会専務理事) 宗定 勇 (休憩 10分)

15:10～16:00 倫理教育：技術者の倫理について (仮題) (立命館大学情報理工学部客員教授) 中村収三

パネル討論

16:00～17:00 科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える

パネリスト：講師ほか。司会：御園生 誠 氏

参加費 無料。資料代 500円 (予定)

申込方法 ①氏名、②所属・役職、③連絡先 (〒、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail) を明記し、E-mail で下記あてお申し込みください。申込者には参加証を送付します。

申込先 101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 (社) 日本化学会企画部 石原 (電話：東京(03)3292-6163、FAX：東京(03)3292-6318、E-mail: ishihara@chemistry.or.jp)

**産学連携：知的財産権にかかわる諸問題と今後のあり方**  
**S3 会場 第 2 学舎 3 号館 E101**

主 催 日本化学会産学交流委員会

日 時 3月26日(月) 10:00～16:30

会 場 関西大学千里山キャンパス・第2学舎3号館E101 (S3会場)

国立大学の独立法人化という大きな組織体の変革と共に、米国のバイドール法を見習って、産学連携における企業と大学間の知的財産に関する仕組みも大いに変わった。独立行政法人化から数年たった現在、当初想定された変革に伴うトラブルは取まり、産、学共に新たな体制に順応しているように見える。しかしながら、産学連携が拡大していく一方、契約に伴う課題、中でもすべての成果を大学に帰属させる基本原則を守ろうとする大学 (TLO) と、成果を独占的に早期に実用化させたい企業との間の価値観には依

然差があり、実際には溝が拡大しているのではという声も聞かれる。本企画では、独立行政法人化後に顕在化した産学連携における知的財産権の諸問題を明らかにし、産官学共に考えてみる機会としたい。

プログラム

10:00-11:00 日本における産学連携と研究の技術移転に関する諸問題と将来展望 (科学技術振興機構・研究開発戦略センター特任フェロー) 村井真二

11:00-12:00 産学連携、知的財産にかかわる諸問題と国の新たな取り組み (仮題) (文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課技術移転推進室)

12:00-13:00 (昼食休憩)

13:00-13:40 大学発ベンチャー育成の現場から (東京大学総合研究機構俯瞰工学部門 教授) 松島克守

13:40-14:20 産学連携と知的財産権—企業から見た連携の問題点 (富士フイルム (株) R&D 統括本部知的財産本部長) 浅見正弘

14:20-15:00 産学連携と法的問題 (飛翔法律事務所 パートナー 弁護士) 五島 洋

15:00-15:15 (休憩)

15:15-16:30 パネル討論会：講師全員 総合司会：渡邊 英一 参加費 無料

講演要旨集 希望者に 2,000 円で頒布

申 込 当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先 (〒、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail) を明記し、事前に下記宛てお申込み下さい。

申込先 〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 (社) 日本化学会 企画部 松原葉子 (電話 03-3292-6163、FAX03-3292-6318、E-mail: matsubara@chemistry.or.jp)

**産と学との出会いの場：学から産へのシーズ発表会**  
**—産学共同シーズイノベーション事業 (JST) との連携—**  
**B8 会場 第 4 学舎 2 号館 R209**  
**B6 会場 第 4 学舎 2 号館 R207**

主 催 (社) 日本化学会、(独) 科学技術振興機構

日 時 3月26日(月) 13:00～17:00

会 場 関西大学千里山キャンパス・第4学舎2号館R209 (B8会場) および第4学舎2号館R207 (B6会場)

大学等のシーズを産業界の視点で見出すための産学の出合いの場として、標記発表会を第87春季年会にあわせて実施致します。本企画は、ここでの出合いがその後、科学技術振興機構 (JST) の研究費支援公募事業 (最長1年、800万円程度/課題) への応募等、産学連携に発展することを期待しております。

本発表会への産業界の皆様のご参加をお待ちしております。

参加費 無料

実施形態 大学等研究者から口頭発表 20～30分程度で行い、その後、聴講者 (産業界) からの質疑応答を別室 (B6会場) で個別に実施。

発表件数 6件程度を予定。

※プログラム等詳細は日本化学会 HP (<http://www.csj.jp>)、または科学技術振興機構 HP (<http://deainoba.jp/>) をご参照下さい。

**環境・安全シンポジウム 2007**  
**—大学の実験における安全教育と安全管理—**  
**S4 会場 第 2 学舎 3 号館 E201**

主 催 日本化学会環境・安全推進委員会

日 時 3月27日(火) 13:30～17:00

会 場 関西大学千里山キャンパス・第2学舎3号館E201 (S4会場)

国立大学法人化に伴って従来以上の対応が迫られている安全教

育と安全管理の実際、とりわけ大学低学年における学生実験の安全教育例を紹介するとともに、学生実験および研究実験時の安全対策と、それに係る責任と罰則規定について専門家の解説を聞く。また、海外の大学における安全管理と安全教育の実際例について最新情報をもとに紹介する。

#### プログラム

13:30-13:45 開会挨拶 (前 環境・安全推進委員会 委員長) 小尾 欣一

13:50-14:25 大学低学年における学生実験の安全教育 (東大総合文化) 下井 守

14:30-15:05 教員および大学の安全管理上の責任 (労働安全衛生コンサルタント) 阿部龍之

15:10-15:45 海外の大学における安全管理と安全教育 (東大環境安全セ) 刈間理介

15:55-16:55 パネルディスカッション (総司会 東工大院理工) 市村禎二郎

参加費 無料。講演資料代:2,000円 (当日徴収)

申込 当日 13:00 から会場にて受付いたします。

問合せ先 企画部 保倉 電話 03-3292-6163 E-mail: hokura@chemistry.or.jp

(ご案内) 環境・安全シンポジウム併催行事として開催予定の「第1回環境・安全問題見学会」は定員に達したため、申し込みを締め切らせていただきました (平成19年3月28日 (水) 9時40分~12時、住友化学 (株) 有機合成研究所 (大阪市此花区春日出中3-1-98)、集合: JR ゆめ咲線 (桜島線) 安治川口駅改札口)。

## 日英 GSC (Green Sustainable Chemistry) シンポジウム

### -Japan/UK GSC Symposium-

F1 会場 第2学舎4号館 F401

ポスター 第2学舎4号館 F402

主催 日本化学会 環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステイナブルテクノロジー ディビジョン

日時 3月27日 (火) 13:00~17:40

会場 関西大学千里山キャンパス  
第2学舎4号館 F401 (F1会場)

グリーンサステイナブルケミストリー (GSC) は、自然と共生する持続可能な循環型未来社会を指向する新しい科学技術体系である。科学のあらゆる方面から GSC の実現へ向けた挑戦が期待され、セントラルサイエンスとしての化学の役割は極めて重要になっている。本シンポジウムは、日本化学会とイギリス王立化学会との日英交流の一環として開催を予定している。環境・安全化学・GC・STディビジョンを中心として、日英両国から講師を招き、GSCの最前線を紹介するとともに、若手研究者を中心とするポスターセッションを同時に開催し、国際交流の場を日本化学会会員に提供したい。

#### プログラム

(Lecture 20min+Dis 5min)

	13:00~ 13:15	会長挨拶 藤嶋 昭 本会会長, James Feast イギリス王立化学会会長
1	13:15~ 13:40	“Design of Dehydrative Condensation Catalysts Based on Acid-Base Combination Chemistry” 石原一彰 (名古屋大学)
2	13:40~ 14:05	“Catalytic Clean Hydrogen Production” Chris Hardacre (University Queen's Belfast)
3	14:05~ 14:30	“Development of Environmentally Benign Synthetic Methods” 石井康敬 (関西大学)
	14:30~ 14:45	Coffee Break
4	14:45~ 15:10	“Replacing VOC Solvents” Tom Welton (Imperial College, London)

5	15:10~ 15:35	“Catalytic Transformations of C-H Bonds” 茶谷直人 (大阪大学)
6	15:35~ 16:00	“Putting the Fizz into Polymers: Polymer Synthesis and Processing In Supercritical Fluids” Steven Howdle (University of Nottingham)
7	16:00~ 16:50	ポスター発表者によるショート口頭発表 ※印 (下記10名、各5分)
8	16:50~ 17:40	ポスターセッション ① “Highly Enantioselective Bifunctional Organocatalysis: New Powerful Methods and Synthetic Applications” Darren Dixon (Univ. of Manchester) ※ ② “Selective Aerobic Catalytic Oxidation of Allylic Alcohols” Adam F Lee (Univ. of York) ※ ③ “Fluorous Catalysis without Perfluorocarbon Solvents” Alison M. Stuart (Univ. of Leicester) ※ ④ “Development of Metal-free Processes” Nicholas Tomkinson (Cardiff Univ.) ※ ⑤ “Environmentally Friendly Tunable Catalysts for Biodiesel Synthesis” Karen Wilson (Univ. of York) ※ ⑥ “Fabrication and Catalytic Activity of Ligand-Free Metal Nanoparticles Encapsulated in Hollow Nanoporous Carbons” 池田 茂 (阪大) ※ ⑦ “Environmentally Benign Acid-Catalyzed Reactions on Mesoporous Silica Material” 石谷暖郎 (東工大) ⑧ “Development of New Direct Catalytic Reaction Using Zinc Clusters ~ Control of Amide Bond and Ester Bond ~” 大嶋孝志 (阪大) ※ ⑨ “Oxidative Coupling of Phenols on Cu-complex Immobilised in FSM-16” 宍戸哲也 (京大) ⑩ “Transition Metal-catalyzed Addition and Carbonylation of Heteroatom-hydrogen Bonds to Alkynes and Allenes” 園田素啓 (阪府大) ⑪ “Photocatalytic H <sub>2</sub> Production on Some Transition Metal Oxynitrides under Visible Light Irradiation” 高田 剛 (東大) ⑫ “Development of Organorhenium Catalyst Supported on Mesoporous Alumina Modified with ZnCl <sub>2</sub> for Metathesis of Functionalized Olefins” 増井洋一 (東大) ※ ⑬ “Enamine-Based Organocatalytic Direct Asymmetric Aldol and Michael Reactions in Aqueous Reaction Media” 間瀬暢之 (静岡大) ⑭ “Development of Dioxygen-Coupled Wacker Oxidation Using PdCl <sub>2</sub> -DMA Catalyst System” 満留敬人 (阪大) ⑮ “CO Gas-Free Catalytic Carbonylation Reactions in Aqueous Media” 森本 積 (奈良先端科技大) ⑯ “Development of High Performance Heterogeneously Catalyzed Oxidations” 山口和也 (東大) ※ ⑰ “Instantaneous Carbon-Carbon Bond Formation Using a Microchannel Reactor with a Catalytic Membrane” 山田陽一 (分子研) ※ ⑱ “Environmentally Benign Synthesis of Silica Nanospheres with a Well-ordered Arrangement” 横井俊之 (東工大) ⑲ “Design of Efficient Nano-sized Metal Catalysts and Thin Films using Photo-assisted Deposition on Single-site Photocatalyst (PAD-SP) Method” 森 浩亮 (阪大) ⑳ “Selective Aromatic-ring Hydroxylation of Alkyl Benzenes by Platinum-loaded Titanium Oxide Photocatalyst” 吉田寿雄 (名大)

参加費 無料 (当日会場にお越し下さい)

#### 懇親会

3月27日 18:00~ 於 関西大学 100周年記念会館

日英シンポジウム関係者、アジア国際シンポジウム関係者。

表彰および懇談会を開催します。

## 公開討論特別シンポジウム 「元素戦略とわが国の未来」

A8 会場 第4学舎2号館 R107

共催 (社)日本化学会  
日時 3月27日(火) 12:00~17:00  
会場 関西大学千里山キャンパス・第4学舎2号館 R107 (A8会場)

物質の創造を担う『化学』は現代社会の発展を支えるとともに、その推進役として大きく貢献しています。しかし、21世紀を迎えた今、人類が直面する社会的課題に解決の糸口を与える物質科学に寄せられる期待はますます大きくなっており、社会・経済のニーズに対応した研究開発の推進が求められています。基礎・応用化学に発した物質科学のもたらす波及効果は極めて大きく、資源・エネルギー、環境などの社会的に重要な問題について『化学』からの具体的な解決策の提言が求められています。それには物質科学に係わる異分野との融合・学際領域研究の推進、また一方で科学者の社会の潮流を読み取る能力をもった人材の育成等が重要となっています。

本会ではこのような趣旨で、平成16年3月28日、神奈川大学の第85春季年会で『化学に発する物質科学の研究戦略』と題して第1回シンポジウムを、また平成18年3月29日、日本大学理工学部船橋キャンパスの第86春季年会で『2030年の社会と物質科学』と題して第2回シンポジウムをそれぞれ開催し好評を博しました。この度『元素戦略とわが国の未来』と題して第3回シンポジウムを開催することにいたしました。この主題はわが国の国益にも関わる重要な課題であり、その行方とあるべき方向について、それぞれの分野の斯界の方々にご講演をいただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

コーディネータ: 村井眞二

総合司会: 村井眞二・玉尾皓平

12:10-13:00 ランチョンセミナー

元素戦略: 今後の政府の研究開発戦略と公募予定施策:

(文科省研究振興局基礎基盤研究課)

(経産省製造産業局非鉄金属課)

13:00-17:00 シンポジウム

A. いまなぜ元素戦略か?

1. 元素戦略: 歴史と展望 (東大院理) 中村栄一
2. 元素戦略とイノベーション (科学技術振興機構社会技術研究開発セ) 有本建男
3. 元素戦略: 各元素の資源量 (京大名誉) 西山 孝
4. 元素戦略: 日本の役に立つ規制戦略 (塩ビ工業・環境協会) 西出徹雄

B. サイエンスとしての元素戦略

1. 生命科学: 生物のとる元素戦略 (名大院工) 原口絃亮
2. 有機合成化学: ここまで減らせる希少元素・規制元素 (東大院薬) 小林 修

C. 社会に必要な元素戦略

1. 脱白金触媒: どこまで進んだか (トヨタ自動車(株)技術統括部) 射場英紀
2. ありふれた元素の底力: 持続社会のための新材料 (東工大応用セラ研) 細野秀雄

参加費・講演資料代 無料。

申込方法 当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先(〒、住所、電話番号、FAX番号、E-mail)、を明記し、事前にE-mailで下記までお申し込みください。

申込先 101-8307 千代田区神田駿河台1-5(社)日本化学会企画部 石原 (電話: 東京(03)3292-6163、FAX: 東京(03)3292-6318、E-mail: ishihara@chemistry.or.jp)

## 「安全・安心の化学技術」 —未来社会へ化学産業が果たすべき 役割を考える—

S3 会場 第2学舎3号館 E101

主催 日本化学会産学交流委員会  
日時 3月27日(火) 13:00~17:00  
会場 関西大学千里山キャンパス・第2学舎3号館 E101 (S3)

会場)

未来の社会を議論するときに、必ず使われるキーワードとして、「持続可能社会」、「環境・エネルギー」、「情報・通信」、「ライフサイエンス」など物質、エネルギー、科学技術分野にかかわるものとは別に、新たに人間社会や人の心にかかわるキーワード、「安全・安心」が注目されている。ところが、安全・安心社会を実現するための科学技術および産業分野はインフォマティクスや社会システム科学が主体で化学産業(化学技術)がはたす可能性についてはあまり議論されていない。本企画では、この分野にも「化学」、「化学技術」が寄与できることがあるのではないかとという観点で、各トピックスについてご講演いただく。

プログラム

13:00-13:50 基調講演 安全安心社会と新産業創造戦略 ((株)三菱総合研究所 先端科学研究センター長) 亀井信一

13:50-14:35 テクノロジー講演① テラヘルツ光の応用 (仮) (名古屋大学大学院工学研究科 教授) 川瀬晃道

14:35-15:20 テクノロジー講演② 全固体Liイオン電池 (仮) (物質・材料研究機構ナノスケール物質センター GL) 高田和典 (休憩10分)

15:30-16:15 テクノロジー講演③ 免震材料 (東京工業大学大学院工学研究科 教授) 西 敏夫

16:15-17:00 これからの自動車の安全設計と部材開発 (金沢工業大学高度材料開発センター 教授) 山部 昌

参加費 無料

講演要旨集 希望者に2,000円で頒布

申込 当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先(〒、住所、電話番号、FAX番号、E-mail)を明記し、事前に下記宛てお申し込み下さい。

申込先 〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5(社)日本化学会 企画部 松原葉子 (電話 03-3292-6163、FAX03-3292-6318、E-mail: matsubara@chemistry.or.jp)

## 第14回化学教育フォーラム 「中等教育における探究活動・課題 研究のあるべき姿と実態を探る」

S7 会場 第3学舎4号館 4101R

主催 日本化学会化学教育協議会

日時 3月28日(水) 9:00~12:30

会場 関西大学千里山キャンパス・第3学舎4号館 4101R (S7会場)

科学的な思考力、表現力の育成のために化学教育に実験、観察は欠かせない。単に学んだ知識を、実験などで確認するだけでなく、仮説やモデルの設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈など科学的に探究する方法を習得することが重要である。探究活動・課題研究に熱心に取り組み、成果を挙げている学校も多い反面、なかなか実施できない学校も多い。本フォーラムでは、探究活動、課題研究がなぜ実施できないのか、どうしたら実施できるのかを考えるために、探究活動に顕著な成果を挙げている中等教育現場から報告、また探究活動の資する教材開発の具体例の紹介を通して、探究活動・課題研究が化学教育においてどうあるべきかについて議論する。

プログラム

1. 開会の挨拶 (化学教育協議会議長、横浜国立大学名誉教授) 伊藤 卓

(9:05~10:20)

2. 理科・化学の探究学習を実現するために必要なこと (京都教育大学) 村上忠幸

3. 食品を題材とした実験授業の取り組み (塚塚山中学校高等学校) 植間 聡

4. スーパーサイエンスハイスクール兵庫県立大学附属高等学校での課題研究 (兵庫県立大学附属高等学校) 西畑俊哉

(10:30~11:20)

5. マイクロスケール実験の探究活動への応用 (東北大学医療短大名誉教授) 荻野和子

6. 博物館という場を活かした小中高向け探究活動用教材の開発 (国立科学博物館) 若林文高

(11:30~12:30)

7. パネルディスカッション (司会 化学教育協議会役員、東京大学) 下井 守

8. 閉会の挨拶 (化学教育協議会副議長、東京女学館中学・高等

学校) 柄山正樹  
参加費 無料です。日本化学会登録の有無にかかわらず参加できます。  
当日直接会場にお越しください。  
問合せ先 企画部 富樫紀子 電話(03)3292-6164  
E-mail: kyoiku-kyogikai@chemistry.or.jp

**市民公開講座**  
**「日本の化学のルーツを探る：  
化学史料館作りを目指して」**  
S7会場 第3学舎4号館4101R

企画 日本化学会化学教育協議会化学アーカイブス小委員会  
主催 日本化学会・化学史学会ほか  
協賛(予定) 大阪市立科学館・鳥津創業記念資料館・武田財団ほか  
日時 3月28日(水) 13:00~17:00  
会場 関西大学千里山キャンパス・第3学舎4号館4101R (S7会場)

我が国における化学に関する貴重な資料・史料の調査と収集、また、そのデータベース化を目指して、平成17年3月、当会に「化学アーカイブス小委員会」を立ち上げ活動しています。この事業への会員の方々のさらなる協力と理解を得るため、これまでに寄贈された資料・史料の一部と各種財団などからお借りした貴重な資料・史料を展示いたします。同時に我が国の化学史・化学工業史に関する講演会を表題の下、当会と化学史学会の共催で市民公開講座として開催いたします。  
プログラム  
総合司会 (日本化学会化学教育協議会議長/横浜国立大学名誉教

授) 伊藤 卓  
開会挨拶・紹介  
13:00-13:15 日本化学会化学アーカイブス事業のいま、これから (日本化学会化学教育協議会化学アーカイブス小委員会委員長/京大名誉・岡山理大教授) 植村 榮

講演  
司会: 植村 榮  
13:15-14:05 日本の化学はこうして始まった (阪大名誉・蛋白質研究奨励会ペプチド研究所所長) 芝 哲夫  
司会: 荻野 博  
14:05-14:55 日本の女性化学者教育の夜明け (日本女大副学長) 蟻川芳子  
(休憩10分)  
司会: 若林文高  
15:05-15:55 日本の化学は如何に発展してきたか: 日本の有機合成化学工業の展開 (元住友化学(株)) 上仲 博  
司会: 伊藤 卓  
15:55-16:45 人材養成は日本の将来に如何に大切か: 化学者の一視点 (東工大名誉) 山本 明夫

開会挨拶  
16:45-16:50 (化学史学会会長) 亀山哲也  
参加費 無料。資料代500円(予備)  
申込方法 ①氏名、②所属・役職、③連絡先(〒、住所、電話番号、FAX番号、E-mail)を明記し、E-mailで下記あてお申し込みください。申込者には参加証を送付します。  
申込先 101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5(社)日本化学会企画部 石原 (電話:東京(03)3292-6163、FAX:東京(03)3292-6318、E-mail: ishihara@chemistry.or.jp)  
※化学史料展示会  
期日 平成19年3月25日(日)~27日(火)10時~17時  
会場 関西大学中央体育館(日本化学会第87春季年会展示会場)  
化学アーカイブス事業にご提供頂いた書籍・写真等のほか、本事業に協賛の団体からの展示を行います。

# 学術研究活性化委員会企画 第二次先端ウォッチングイブニングセッション

● 3月25日(日) 15:00-18:00

## 生命分子科学の進展

C3 会場 第4学舎2号館 R303

- 15:00-15:15 はじめに：光受容タンパク質と分子科学(京大院理) 寺嶋正秀  
15:15-15:35 タンパク質の構造と機能(岡崎統合バイオサイエンスセンター) 桑島邦博  
15:35-15:55 タンパク質溶液構造：揺らぎと機能(奈良先端大物質創成) 片岡幹雄  
15:55-16:10 分光学とタンパク質科学(阪大院理) 水谷泰久  
16:10-16:30 タンパク質のアミロイド線維形成(阪大蛋白研) 後藤祐児  
16:30-16:50 生体分子の構造生物学(横浜国大院工) 内藤 晶  
16:50-17:05 分子の言葉で綴る生命現象の理論：現状と課題(分子研) 平田文男  
17:05-17:25 理論・シミュレーションの立場から(横浜市大院国際総合科学) 小寺詔紀  
17:25-17:45 生体膜に関する分子科学の展望(京大化研) 中原勝  
17:45-18:00 DNA分子化学(阪大産研) 真嶋哲朗  
※演題はすべて仮題

● 3月27日(火) 15:00-18:00

## バイオ計測とナノ・マイクロ化学 分析の新展開

S1 会場 第4学舎2号館 R202

- 15:00-15:10 分析科学研究のゆくえ「学術ロードマップ(分析化学分野)」(慶大) 鈴木孝治  
15:10-15:40 レーザー分光(九大) 今坂藤太郎  
15:40-16:10 マイクロ分析化学(東大) 北森武彦  
16:10-16:20 休憩  
16:20-16:50 バイオイメージング(分子研) 小澤岳昌  
16:50-17:20 バイオ分析(九大) 片山佳樹  
17:20-18:00 パネルディスカッション「今後の分析化学分野の研究を考える」  
司会：鈴木孝治(慶大)  
パネラー：今坂藤太郎(九大)・大塚浩二(京大)・小澤岳昌(分子研)・垣内 隆(京大)・片山佳樹(九大)・喜多村 昇(北大)・北森武彦(東大)・角田欣一(群馬大)・丹羽 修(産総研)・馬場嘉信(名古屋大)

● 3月27日(火) 15:30-18:00

## ケミカルバイオロジー —化学から生物へ—

S2 会場 第4学舎2号館 R210

- 座長 有本博一(東北大院生命科学)  
15:30-15:50 遺伝子発現のケミカルバイオロジー(京大化研) 上杉志成  
座長 島本啓子(サントリー生有研)  
15:50-16:10 創薬研究におけるケミカルバイオロジー(エーザイ(株)) 大和隆志  
座長 深瀬浩一(阪大院理)  
16:10-16:30 海洋天然物のアクチン脱重合活性と細胞毒性(筑波大数理) 木越英夫

- 座長 井上将行(東北大院理)  
16:30-16:50 微生物化学の復権(理研) 長田裕之  
16:50-17:00 休憩  
座長 芳坂貴弘(北陸先端大材料)  
17:00-17:20 遺伝暗号リプログラミングとその創薬技術への展開(東大先端科学技術研究センター) 菅 裕明  
座長 深澤義正(広大院理)  
17:20-17:40 超分子化学からケミカルバイオロジーへ(京大院工) 浜地 格  
座長 河合孝治(東レ)  
17:40-18:00 細胞系活性試験を指標とする医薬シーズの探索(阪大院薬) 小林資正

● 3月27日(火) 13:00-17:15

## 分子性結晶の化学と 電子デバイスへの応用

A3 会場 第4学舎2号館 R101

- 座長 板谷謹悟  
13:00-13:30 特別講演 物理・デバイス分野から見た化学への期待(機械振興協会・技術研究所) 梶村皓二  
13:30-14:00 特別講演 有機分子性金属の開発から有機超伝導体の開発へ(兵庫県立大物質) 山田順一  
座長 庭野道夫  
14:00-14:30 有機ELデバイスの開発の現状と課題(技術コンサルタント) 當摩照夫  
14:30-15:00 特別講演 金属・半導体(電極)/有機分子の接合と電気伝導(北大理) 魚崎浩平  
15:00-15:30 自由討論・休憩  
座長 山田順一  
15:30-16:15 特別講演 不安定化学種のX線構造解析(東工大理工) 大橋裕二  
16:15-16:45 特別講演 分子性結晶の成長過程における特異性とその電子デバイスへの応用(東北大工) 板谷謹悟  
16:45-17:15 特別講演 有機トランジスタの界面評価と制御(東北大通研) 庭野道夫

● 3月27日(火) 15:00-18:00

## 次世代型環境応答性金属錯体

A6 会場 第4学舎2号館 R105

- 座長 増田秀樹(名工大院工)  
15:00-15:20 ナノ空間・ナノ反応場の構築と制御(京大院工) 北川 進  
座長 北川 進(京大院工)  
15:20-15:40 分子認識空間の構築と物質変換触媒の創製(東大院理) 唯 美津木  
座長 唯 美津木(東大院理)  
15:40-16:00 金属錯体の自己組織化による情報伝達(九大院工) 君塚信夫  
座長 君塚信夫(九大院工)  
16:00-16:20 ナノ反応場によるポテンシャル制御と分子変換(九大院工) 久枝良雄  
座長 久枝良雄(九大院工)  
16:20-16:40 金属錯体の集積化による光触媒機能(立命館大理工) 民秋 均  
座長 民秋 均(立命館大理工)  
16:40-17:00 金属錯体のナノ空間制御による外場応答(首都大院理) 井上晴夫  
座長 井上晴夫(首都大院理)  
17:00-17:20 空間制御によるエネルギー変換デバイス(九大院理) 山内美穂

座長 山内美穂 (九大院理)

17:20-17:40 ナノ空間制御による新しい生体反応場の構築 (名大院理) 渡辺芳人

座長 渡辺芳人 (名大院大理)

17:40-18:00 ナノ空間・ナノ反応場制御による動的分子認識 (名工大院工) 増田秀樹

● 3月27日 (火) 15:00-18:00

## 均一・不均一系触媒の融合： 協奏機能

B7会場 第4学舎2号館 R208

15:00-15:10 趣旨説明 (京大院工) 大寫幸一郎

15:10-15:25 機能分子触媒の創成と実用的触媒反応の開発 (東工大院理工) 碓屋隆雄

15:25-15:40 部分解離可能多座配位子の開拓 (東工大資源研)

田中正人

15:40-15:55 金属間共同効果を基盤とした触媒反応の創製 (東京農工大院工) 小宮三四郎

15:55-16:10 理想化学変換プロセスを実現する新しい水中機能性固体触媒の開発 (分子研) 魚住泰広

16:10-16:25 多核遷移金属活性点と反応場の制御による選択酸化触媒の開発 (東大院工) 水野哲孝

16:25-16:40 希土類ヒドリドクラスターを基盤とする多金属触媒 (理研) 侯召民

16:40-16:55 環境調和型分子変換システムの構築を目指した固体の特性に基づく機能集積型触媒の開発 (阪大院基礎工) 金田清臣

16:55-17:10 表面を媒体とした選択酸化触媒機能の創出と高度触媒反応制御 (東大院理) 唯 美津木

17:10-17:25 生体機能を範とする水中物質変換反応の開発 (九大未来化学創造セ) 小江誠司

17:25-17:40 人工補助因子による酸素活性中心の制御と新規触媒能の開発 (名古屋大理) 中島 洋

17:40-18:00 自由討論

※演題はすべて仮題